

オペラの魅力すべて満載、 でも「大人の冗談」

R.シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》公演よせて

《あらかわバイロイト》オペラ監督 田辺とおる

ドイツ語・英語でアリアドネ。フランス語でアリアース、スペイン語でアリアドナ、イタリア語はリアンナ。ギリシャ神話に登場するクレタ島の王ミノスと妃パシパエの娘。

絵画ではルネサンスのティツィアーノ・ティントレット・カラッチから、ドラクロワ・マカルトを経てキリコ・ドニ・コリント等近代作品まで取り上げられている。音楽でもモンテヴェルディ・ヘンデル・ハイドン、そして本年生誕百五十年のリヒャルト・シュトラウス等に名曲が残る。神話の中でも超有名人なのだ。もっとも最近ではアリアドネの糸といえば、専らゲーム「世界樹の迷宮」の攻略必須アイテムだそうで、オチサンは古典を下敷きにしたゲームやアニメの多いことに毎度目を丸くする。

どんな話かといえば、舞台はもろろんギリシャ。アテネにエーゲ海のクレタ島とナクソス島。

クレタ王ミノスがアテネに戦勝したので、アテネはクレタに住む牛頭人身の怪物ミノタウロスに生贄を捧げている。これに憤ったアテネ王子テセウスが怪物退治にクレタに到着すると、王女のアリアドネは彼に一目惚れ。アテネに同行して妻になる事を条件に、短剣と糸毬（まり）を渡して助太刀する。ミノタウロスが迷宮にいた為、テセウスは罅から糸を伸ばしながら辿り着き、授かった短剣で退治。糸に導かれて無事帰還。二人はクレタを後にした。ここから正解への手引きや内助の功を「アリアドネの糸」という。

ところが道中、テセウスはアリアドネをナクソス島に置き去りにしてしまう。悲嘆にくれるアリアドネ。そこに現れたのがディオニススこと若神バッカス。今度は彼が彼女に一目惚れして孤島から救い出し、めでたしめでたし。

シュトラウスが採用したのは最後の部分で、悲しむアリアドネに同情する妖精の三重唱から始まる。そしてバッカスの雄々しき登場。最初は訝（いぶか）るアリアドネ。やがて恋が芽生えて二重唱とともにナクソス島を出るまでが作曲された。

しかしシュトラウスは、この作品にもうひと捻り加える。「大金持ちが宴会の余興に、新米作曲家を雇って神話オペラを依頼」という設定で、上演前の楽屋裏を見せたのだ。

その序幕。生真面目な青二才は一世一代の名曲を書いたと胸を張るが、所詮は余興の為という所がミソ。この富豪は古典に倣って悲劇の後に喜劇を置いた。但しこちらは古代ギリシャから千何百年後のルネサンスにイタリアで栄えたコンメーディア・デッラルテ。ピエロと美女とその取り巻きという、吉本的に「毎度おなじみ」の寸劇である。

ところが金満家の御主人様はわがまま。午後九時から花火だから舞台はそれまでと譲らない。作曲家の師匠は頭を抱えるが、主人は事も無げに「だったら喜劇と悲劇を同時上演すればよからう」と言い放つ。二つの舞台ではない。一つの舞台で両方一遍にやっつけてしまえ、と。

この話、東京でなんとかオペラをと苦戦する我々にとって、他人事とは思えない。クラリアントが見たいステージと演者が本当にやりたいステージは、大抵食い違うものである。シュトラウスの洞察には恐れ入る。

当然ながら楽屋は大騒ぎ。喜劇組が「面白いジャン」とはしゃぐ脇で、「僕の労作になんという侮辱」と作曲家は激昂。アリアドネ役のプリマドンナも「冗談じゃないわよ」と音楽教師に詰め寄る。先生は「長い物には巻かれて・・・」と二人を慰留。やがて皆が引き

上げると喜劇組の美女がひとり残り「お笑いなんて本当は淋しいのよ」と作曲家に内心を吐露するや「なんと清らかな」と淡い恋心が芽生える。いわゆるズボン役の作曲家はメゾソプラノが歌う青年役なので、女声二部の美しい重唱が高揚した瞬間、「サア芝居の幕開きだ」と喧騒が回帰して序幕は終わる。

そしてオペラ幕。二つの異質な古典は、本当に同時進行するのだ。まさに「大人の冗談」。置き去りにされたアリアドネに「あの人悲しそうだから慰めてあげようよ」と喜劇組が芝居始めてしまう。可愛い子ちゃんのツェルピネッタは、超絶技巧のコロラトゥーラを駆使した大アリアで激励。アリアドネは無視。途中から洞穴の棲家に戻ってしまうが、喜劇組はお構いなしに芝居を続行。やがてバッカスが到着し、アリアドネの心が解けて結ばれる終景では、喜劇組と妖精たちは観客にまじる格好で二人を祝福して幕。

悲劇から喜劇、バロックから近代。あらゆる声種が競い、構想も言葉も音楽も本当にオシャレで、およそオペラの魅力が全部つまった名曲中の名曲なのだ。

来年一年はサンパール荒川が改装閉館。再来年以降の《あらかわバイロイト》については、累積赤字という深刻な問題で目下は白紙。二〇〇九年に《バルシファル》で立ち上げて六年目ですが、ひとつの区切りの公演になります。是非、お越しください！

(ところで、日本ではなぜかこの曲を「ナクソス」と略称するけど、どうもCDレーベルが浮かんでしまう。「ナクソス島の」アリアドネ」さんだから「アリアドネ」が略称でないとピンと来ないのだけど・・・)